

事業所名

放課後等デイサービス わかたきっず

支援プログラム

作成日

2025年

2月

1日

法人（事業所）理念		少子高齢化社会を見据え、地域を担う医療・健康（スポーツ）・障害福祉の専門職として地域社会に貢献します	
支援方針		本人の気持ちを受け取め、こだわりや思い、自分らしさを保障していく中で、安心して過ごせる居場所作りを行う。 身辺自立や発達課題など長期的な視点で卒業後や社会生活を見据え、こどものウェルビーイング（心身が満たされた状態）に繋がるよう必要な支援の方法で療育を行っていく。 構造化された環境の中で視覚支援を行い、見通しをもって安心して過ごせるようにする。 友だちや職員との温かい触れ合いやSSTでのコミュニケーションスキルを学ぶ中で、人と関わる心地よさを味わえるようにする。 学校や卒業後の事業所と連携をとり、支援が繋がるよう努めたり、色々な地域社会の場に行ってみたりする。	
営業時間		平日：13:30～17:30 学校休業日：10:00～16:00	送迎実施の有無 あり
支 援 内 容			
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心身の健康状態の把握（日常の健康観察、毎日の体温測定、心の変化や小さなサインに気づけるようきめ細やかな観察）</li> <li>・基本的な生活スキルの獲得（身の回りのことが少しずつでも自分で行えるよう個々の状態に応じた環境調整や獲得にむけた支援、見守りや長期的な視点）</li> <li>・構造化等による環境調整（スケジュール表など視覚支援を取り入れ見通しをもって安心して過ごせる環境づくり、自分らしく安心できる居場所づくり）</li> <li>・生活におけるマネジメントスキルの育成（自分の心身の状態を把握したり、意向やアイデアを反映したりしながら生活の流れを自分で組み立てていけるような支援）</li> </ul>	
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢と運動・動作の基本的技能の向上、保有する感覚の向上（理学療法士が中心となってビジョントレーニングや個々の状態に合わせたトレーニングや運動を考案し実施。動体視力や空間認知、目と手の協調性、集中力や注意力の向上、身体の機能の向上などを旨とする）</li> <li>・身体の移動能力の向上（個々の様子に合わせて補助具を利用し外出体験の機会をもつ、歩行や手足の動きをスムーズに行えるようなトレーニングプログラムの提案）</li> <li>・感覚特性への対応（個々の過敏さ鈍感さに合わせてイヤーマフの使用や個別スペースの確保調整、感覚遊びによる感覚刺激などの実施）</li> </ul>	
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知の特性についての理解と対応（個々の様子に合わせた対応方法や視覚支援）</li> <li>・知覚から行動への認知過程の発達（様々な経験を積み重ね、状況に応じた行動の獲得とパターンの増加、またその行動が他の状況や場面でも活用できるよう支援）</li> <li>・認知や行動の手がかりとなる概念の形成（ビジョントレーニングや自立課題、遊びなどを通して様々な概念の習得）</li> <li>・行動障害への予防及び対応（個々の様子に合わせた環境設定や視覚支援を活用した多様なルーティンの受け入れ支援、氷山モデルを活用した行動の根幹の見極めと対応）</li> </ul>	
	言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語の受容と表出（安心できる環境の中で、本人が分かりやすい言葉やジェスチャー、絵カード、実物などを用いてこちらの意図が伝えたり、自分の思いを言葉や物を介して表出できるような支援）</li> <li>・人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得（小集団でのビジョントレーニングやSST、集団遊びで関わりながら獲得できるような支援）</li> <li>・指さし、身振り、サイン、絵カード等のコミュニケーション手段の選択と活用（個々の様子に合わせた言語以外でも円滑にコミュニケーションがとれるような環境の調整と獲得支援）</li> <li>・状況に応じたコミュニケーション（SSTで様々な場面を想定し、場や相手の状況を読み取り、ふさわしいコミュニケーションの獲得支援）</li> </ul>	
	人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アタッチメントの形成と安定（安心できる居場所の中で信頼関係の構築や自己肯定感の高まりを目指す支援）</li> <li>・情緒の安定（個々の様子に合わせた環境づくりや活動、支援方法の配慮、自分の心身の状態に合わせて対応できる力の獲得支援）</li> <li>・他者との関わり形成（安心できる信頼関係の中で人との心地よい関わりや他者との関わりにおける同意を発信したり、相手の意見を尊重したりできるような支援）</li> <li>・仲間つくりと集団への参加（相手の強みに目を向け自分との関わり方の調整ができるような支援、行事に向けて小集団での相談やアイデアの提案、意見交換を通して相互理解を深める支援）</li> </ul>	
家族支援		移行支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフステージの切り替えを見据えた将来的な移行支援</li> <li>・移行先の受け入れ体制づくりへの協力</li> <li>・進路や移行先の選択についての本人や家族への相談援助</li> <li>・並行利用先や保育園、学校との情報共有や支援の擦り合わせ</li> </ul>
地域支援・地域連携		職員の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所内研修や勉強会の実施（虐待防止、身体拘束、感染症等に関する研修や支援方法に関する研修）</li> <li>・外部の専門研修への参加</li> <li>・強度行動障害支援者養成研修など専門的知識を深める研修への参加</li> </ul>
主な行事等		・七夕会 ・水あそび、プール ・ハロウィンパーティー ・いもほり ・クリスマス会 ・豆まき ・クッキング ・電車体験 ・外食体験 ・避難訓練 など	